

2018年4月号 FP武蔵野グループ



今村幸雄 (CFP®認定者)

「アセットアロケーション配分にシナリオアナリシスを使った資産運用」

昨年末、運用のプロと呼ばれるエコノミストやアナリストの人達は、揃って今年の日本株は好調で為替も円安に進むと新聞やテレビなどで語っていました。中には秋に日経平均は3万円を超え、年末は4万円になると断言していた証券会社のテクニカルアナリストもいました。それから、僅か2か月で相場は大幅に調整し、先行きは何とも言えない情勢になってしまいました。プロであろうがアマチュアであろうが相場を正確に読めるような人は存在しないという証明です。

そんな状況下、私たちはどんな運用をすればいいのでしょうか？今月のメルマガは、そのヒントになる運用方法について紹介します。今までの投資理論は、投資資産を一つのアセットに集中させるのではなく、分散投資した方がリスクは少ないと言ってきました。しかし、どの資産にどの程度分配すればいいのかということについて、あまり理論的には語られてきませんでした。今回は、シナリオアナリシスという方法を紹介します。勿論、相場が読めるわけではないので、この方法が絶対正しいということではありません。

ん。しかし、運用方法の一つのヒントになることは確かです。

それでは、具体的にその方法を紹介します。まず、今年年末までの運用環境を予測します。例えば、①5月以降相場は回復し、アメリカをはじめ世界経済は好調に推移し、アメリカが金利を引き上げるので円安が進み、日本株も好調だとする確率が50%、②一方、アメリカと中国の貿易摩擦が世界経済に影響を及ぼし、為替も円高に進み、株式相場は停滞するというシナリオが30%、③先進国の景気は、現状を維持し、アジアや一部の 아프리카やブラジルなど発展途上国の経済が成長するというシナリオが20%というような予想を立てます。①のシナリオの場合、先進国の株は好調ですので、アセット配分は日本株40%、欧米株40%、円安に進むので海外債券20%となります。②の場合、世界株式は日本株も含めて崩れ、更に円高も進むので、アセット配分は国内債券（含預金）と金（ゴールド）で50%ずつ持つという配分です。③の場合、新興国の経済が伸びるので、新興国株式70%、新興国債券30%という資産配分になります。これを基に資産配分を調整します。日本株は①の確率に40%を掛けると全資産の20%、先進国株も同じく20%、先進国債券は10%、国内債券は②の確率に50%を掛けると15%、同じく金も15%、発展途上国株式は③の確立に70%を掛けると14%、発展途上国債券は6%というようになります。このように、シナリオに基づいてアセット配分を決めれば最もリスクが少ないと予測されます。これを6か月ごとに見直していく運用方法がシナリオアナリシスに基づく運用です。もう少し、リスクを上げて収益を増やすのであれば、

リスクシナリオに国内債券でなく、日本株で値段が下がれば収益が上がるという逆張りの商品を組み合わせることで。

今、世界はかなり大きく変化しそうな局面です。シナリオを作るのは米朝首脳会談や米中貿易摩擦の結果が見えてくる6月あたりにするのが無難と思われます。なお、シナリオについて、ご質問があれば当グループホームページよりメールでお尋ねください。

以上